

就職・進路相談室だより

第11号 令和2年2月号
茨城大学 全学教職センター
就職進路相談室 029-228-8654



< 2月の予定 >

2月の相談室…演習計画

※ 通常相談の開室状況は別紙で相談室入り口等に掲示

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-----------------|-------------------------|--------------------------------|----------------------|----|--------------------------------------|----|
| 2 | 3 | 4 討論1 (菊池) A棟 模擬授業室 ☆小・養 | 5 教採講座1・2 | 6 | 7 場面模擬1 (益子) A棟 模擬授業室 | 8 |
| 9 | 10 面接1 (石島) A棟 模擬授業室 | 11 建国記念の日 | 12 相談室閉室 | 13 | 14 討論2 (石島) A棟 模擬授業室 ◎全校種(フリ-) | 15 |
| 16 | 17 面接2 (菊池) A棟 模擬授業室 | 18 場面模擬2 (菊池) A棟 模擬授業室 | 19 教採講座1・2 相談室打合せ | 20 | 21 | 22 |
| 23 天皇誕生日 | 24 振替休日 | 25 相談室閉室 | 26 相談室閉室 | 27 | 28 討論3 (益子) A棟 模擬授業室 ★中高・特支 | 29 |

教採講座1…集団討論対策/いじめ問題, 教師の感覚/特別支援教育, 面接対策/4月までにすべきこと
教採講座2…特別支援教育/学校の施設管理と学校評価

< 相談室は春休みも休まず「営業」します! >

- ◎ 相談室の利用における留意点についてお知らせします。10月に相談室の利用が始まってから4か月が経ちました。まだ利用をしていない学生・院生のみなさんは、進んで予約(ドリームキャンパスでの予約, または追加予約票による予約)をし, 教員採用試験対策に生かしてください。一度入れた予約はなるべくキャンセルせずに, 相談の機会を大切にしましょう。予約後にどうしてもキャンセルをする場合は, できるだけ早めに学務グループ担当に連絡してください。時期によっては予約待ちの学生・院生が相談室の空きを待っていることもあります。当日のキャンセルも, 学務グループ担当または相談室の電話に一報を入れてください。なお, 相談室での面談の際には, 添削していただく資料を相談室で事前にコピーし, 相談員の先生に渡しましょう。面談がスムーズになります。

学務グループ : 029-228-8204

相談室 : 029-228-8654

- ◎ 春季休業中と言えども, 就職活動や教員採用試験対策を進める人にとっては, 変わらず重要な時期であろうと思われます。就職進路相談室では, 春季休業日中も, これまでと同様に相談活動を実施していきます。時間を見つけて, 積極的に相談室を利用することをお勧めします。また, この時期はボランティア活動を意欲的に展開していくのも重要です。春季休業中の活動を充実させながら, 教採の二次試験対策を効果的に進めてください。

- ◎ 2月も引き続き演習を位置づけます。演習においては, 各自が受験する都道府県・政令都市の試験科目・内容に応じて参加してください。「演習」は, 毎回10人~12人がグループとなって実施します。参加を希望する方は, A-102内の相談室隣, 講師控室に置いてある「予約表」で事前に申し込んでください。参観も希望できます。奮って参加し雰囲気を感じてください。実施時間は, 基本的に13:00~15:00です。大学の授業と重なってしまう場合は, 途中からの参加や退室も可能です。

☆論作の型を考える☆

教員の資質能力の向上が求められている中、あなた自身がこれにどう取り組んでいくかを述べなさい。

型の一つ目…序論・本論・結論で構成する。

序論：テーマの背景，課題，解決の視点を述べる。(全体の20～30%)

本論：序論で述べた課題について，解決の具体的方策を2～3で述べる。(全体の60～70%)

結論：別の視点からの補説，教職への抱負・決意などを述べる。(全体の10～20%)

「主体的・対話的で深い学び」の実践やいじめ・不登校への対応など，学校教育は常にさまざまな課題を抱えている。これら諸課題に対応していくために，教師には絶えず知識・技能の刷新が求められる。私は，資質能力を高めるために二点に取り組んでいく。

- ①→ 第一点は，誰もが理解できる授業づくりに向けた専門性の向上を図ることである。教師の仕事の中心は授業である。授業を通じて子どもたちに知識・技能を身に付けさせ，その活用力を高めることが求められている。私は教育ボランティアで子どもたちが主体的に学ぶ様子を見て授業づくりの大切さを痛感した。質の高い授業をするために，私は教科の知識理解を深め，教材や板書の工夫を図っていく。先輩教師の授業を積極的に見学し，研究授業にも取り組む。校内外の研修にも参加し，専門書を読むなどして，新しい教育技術の開発にも挑戦する。専門性を高めることで，どの子どもも楽しく学び，理解できる授業作りに取り組んでいく。

第二点は，深い児童生徒理解ができる豊かな人間性を醸成することである。

以上二点に加えて，私は教師として常に学び続けることで自らの資質能力を高め，子どもにとっての「生きた手本」となる。そのためにも，教師として日々研究と修養に励んでいく決意である。

←序論

←本論

←結論

型の一つ目…本論の中にも型がある。①②③とその表現を意識することが意図を伝えることに繋がる。

①：本論の柱（見出し）を掲げる。（←テーマや序論で受けた課題に向かう柱か，見出しか）

②：なぜこの柱なのか，見出しなのか，自分の考えや意見を具体的に述べる。

③：①の柱（見出し）を具現化するために自分は何をするのかを書く。（書き出しは…私は，具体的には，例えばなど。文末の表現に注意を払う。）

☆：自分の経験や体験。②と③の間に位置する。①②の必要性を強調することになる。本論を二点で書く人にはお勧め。三点で書く人にとっては，書き込むスペースが無い可能性も…。